



わかば

2019. 6. 1
(令和元年)
第19-8号
文責 校長 信國 寿敏

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

教育目標 「帰国後、日本の教育に円滑に適応できるよう、日本の学校における学習指導要領に沿った国語、算数(数学)の学力の維持、併せて生活・生徒指導を行う。」

重点目標 **一人一人が輝く教育** ～期待登校・満足下校～(2年次)

いよいよ運動会の6月を迎えました。・・・第48周年運動会 6月29日(土)

令和の時代の初めての運動会を、6月29日に開催いたします。昨年の白熱した紅白リレーは、実に印象深く、激走する生徒が必死なら、応援する生徒たちも手に汗を握り、声を枯らしながら必死に応援をしていました。本年度もこのような「集中・熱中・夢中」の運動会になることを願っています。

補習授業校は、日本国内の学校の様に練習を重ねての競技や演技とはいきませんが、児童生徒の作文にも度々書かれるように、児童生徒にとっては、楽しみの一つですし、応援団による一体感や勝ち負け、順位などの各自の目標を持つことが出来る学校行事です。

また、運動会を通して、保護者同士や日本人会のまたとない交流の場、親睦を深める場ともなっています。できるだけ多くのご参観をお願いいたします。

なお、来週中に「運動会のご案内」の一斉メールを配信する予定ですので、よろしくお願いします。



赤組(17名)

2019 応援団

白組(16名)



※団員全員の写真ではありません。改めて、写真、団員名、抱負などを紹介します。



元気はつらつとした両応援団です。昼休み、放課後などを使って打ち合わせや練習に励んでいます。

児童生徒の作品紹介 IV



今週は、6年の読書感想文と2年生の作文③を紹介します。

校長 信國 寿敏



【感想文 6年】 「カレーライス」を読んでから

「甘口」と「辛口」と成長

高山 芹奈



物語、「カレーライス」では、ひろしが一日三十分の約束を破り、お父さんにゲーム機のコードをぬかれてしまいます。ひろしはおこりますが、二人でカレーライスを作って、仲直りする物語です。

この物語には、お父さんがひろしはもう甘口ではなく、中辛なのだと思える場面があります。

私は、ひろしの成長を、「甘口」や「辛口」と表現しているのだと思います。小学三年生までは、甘口のカレーでもおいしかったのに、六年生になり心が成長して、辛口がおいしく食べられるようになったのだと思います。

「カレーライス」では、ひろしの心が成長していくのを、「甘口」から「辛口」へと変わっていくということにたとえて表現しているのだと思います。

ひろしの心のゆれの動きの感想

金井 恭次郎



ぼくは、この「カレーライス」を読んで、ひろしの視点から、ぼくも同じだなと思いました。そして、ひろしの心のゆれには、いろいろなことを思いました。

ひろしは、最初は意地を張ってあやまりませんでした。日にちがたつにつれ、仲直りしようかなと思いました。とくにこの時、ぼくもけんかをしたとき、少しこうかいしたり、なかなかあやまれなかったり、意地を張ったりしてしまいます。でも、最後には仲直りします。ひろしとお父さんが一しょにカレーを作った時は、知らぬ間に仲直りしていました。ぼくも、カレーはつくらなくても三日くらいたてば仲直りします。

このように、ぼくはひろしとの共通点がたくさんあり、ひろしが自分のように感じます。あらためて、ひろしの気持ちがわかるなと思いました。

「お父さん」の視点で見直して

笹尾 まい

お父さん視点で見直した「カレーライス」は、ひろし視点で見た「カレーライス」とは、また少し違った面白さがあった。

私のお父さんは、あまり自分の気持ちを表に出さず、何を考えているかあまりわからない。だから、改めてお父さん視点で「カレーライス」を読んで、

「あ、お父さんって、あの時こんなことを考えていたのかも」

と、少しだけお父さんの気持ちがわかった気がした。その思いといっしょに、

「もし私がひろしみたいな行動をしていたら、私のお父さんはどう思うんだろう？」

と、今まで思いもしなかったことが、頭に浮かんだ。

私がこのように思ったことは、いつか役に立つ日が来るのだろうか。わからない。でも、いつか、「ひろし」みたいな問題で悩んでいる人がいたら、この話を聞かせてあげたいと思う。



一般に小学校の新1年生の初給食は、他学年より少し遅れて始まります。初給食は、「カレー」が多く出ます。全ての子どもが好きとは限りませんが、子どもにとっては大好きな給食の「鉄板メニュー」です。また、各家庭でのこだわりのレシピも多くあり、子どもたちの話題にもなります。

さて、親子で口論をすることもある思春期の子どもたちですので、その時期に合わせたように教材が位置付けられています。独りよがりの考えではなく、相手を意識した考えを持つことも大切と示唆しているようです。私自身も含め、「あ～、あの頃は・・・」と、我が身を振り返る感想文かなと思います。

今夜は、カレーへの急な晩御飯のメニュー変更があるかもしれませんね。



【作文 2年】③ 「こんな二年生になりたい」

佐々木 周



ぼくは、がんばる二年生になりたいです。なぜならば、大きくなったら、まだせかいないやくにたつものをはつめいしてみたいからです。ブラックホールのこともしっかりしたいので、いろんな本を読むために、こくごさんすうどちらもがんばります。

それから、たいりよくをつけるために、サッカーをがんばりたいです。学校では、おともだちとひる休みにいっぱいあそびたいとおもいます。



ジョンストン 未亜

わたしは、二年生になったので、こくごさんすうとかん字のテストでぜんぶ百てんをとりたいたいです。そのためにがんばることは、しゆくだいをまいにちやります。

もう一つは、サッカーが上手になりたいです。わたしは、サッカーボールをもっているから、うちのにわでれんしゆうをします。おにいさんといっしょにれんしゆうをします。二年生になったので、きちんとしようほうがんばります。



デイビッドソン 利紗

わたしは、一年生にやさしくできる二年生になりたいです。なぜなら、一年生には、たくさんともだちがいるからです。

バレエを二さいからやっています。きょうはバレエのリハーサルです。ちようちよのやくです。がんばります。二年生になったので、たくさんがんばりたいです。



ナカニシ ケン

ぼくは、二年生になったらかん字とかげざん九九をいっばいならいたいです。そのかん字をつかって、日本にいるおばあちゃんにお手のみをかきたいです。

うんどうかいでは、はしるレースで一ばんになりたいです。一年生のときは、まけてしまったから、こんどは、はやくはしりたいです。お休みをしないで一年かんがんばります。

【作文 2年】③ 「こんな二年生になりたい」

田代 悠人



ぼくは、こくごでいいてんをとれる二年生になりたいです。どうしてかと言うと、一年生のころはさんすうはだいじようぶだったけど、こくごでんすうは、そんなによくありませんでした。

二年生では、こくごをがんばるためにぼくは、かん字をたくさんかいているんなかん字をつかって文しようをつくるのをがんばります。



ディオルディ エリック

ぼくは、スポーツや読しよをたくさんやりたいです。大きなベイブレードやゲームも、しゆくだいがおわたたら、たのしくやりたいです。まいにちかん字のべんきようをするのは大へんだけど、がんばってテストでよいてんをとりたいたいです。学校で、おともだちともなかよくあそんで、べんきようしたいです。

うんどうかいやがくげいかいのれんしゆうもがんばります。



西山 晴

ぼくは、あたらしいことにちようせんする二年生になりたいです。まずは、フラッグフットボールをはじめます。これで、足がはやくなりたいです。

つぎに、リフティングをれんぞく二十かいでできるようになりたいです。いまは、二かいしかできません。

そして、さいごにあたらしいともだちがつかれるようになりたいです。

ホフマン 絵里奈

わたしは、二年生になりました。おともだちがうクラスになりました。わたしは、はずかしがりだけど、あたらしいクラスであたらしいおともだちをつくりたいとおもいます。

べんきようはかん字をきれいにかけるようになりたいです。はね、とめ、はらいに気をつけます。

さいごにバクテンが、できるようになりたいです。





いよいよ、2年生作品も本号と次号で一区切りとなります。2年生の協力で児童生徒の作品を多く掲載することが出来ました。本当にありがとうございます。

さて、頑張る目標があれば、努力もします。また、そのことを保護者の皆様もご存じであれば、我が子のためにと応援していこうとされます。そのことは、児童自身にも伝わり、喜びや愛情を感じることでしょう。頑張り具合もぐっとアップするのは間違いないですね。

本年度の校長授業参観が始まりました・・・指導力の向上につなげる職員研修です。

4年1組 野田 陽子 先生 (5月25日)
国語科学習 「大きな力を出す」

この学習のねらいは、段落相互のつながりや事実、説明、筆者の考えなど、段落どうしの関係を考えることにあります。

今年の参観の視点は、めあてや振り返りはどうであるか、また、個人だけでなくグループや隣り同士でいかに学習を深めようとする活動が仕組みられているかです。

写真は、3つのグループに分かれ、出された課題について、本の文章を根拠に考えている様子です。子どもたちは、自分の考えを伝えたり、また他者の意見と比べたりしながら、学びを深めていました。学校の方針に沿った授業づくりの一例です。



6年生や中学生のボランティア活動・・・読み聞かせ(小6)といす上げのお手伝い(中1)

写真は、6年生が1年生の教室で、読み聞かせをしているところです。1年生は身を乗り出して静かに聞き入っていました。

6年生にとっては、相手意識をもってどのように読んだほうがいいのか考えたり、読みの練習をしたりする音読にもなります。1年生にとっては、小学校生活の楽しみであったり、温かく見守られていると感じる喜びでもあったりすることでしょう。

中学1年による1年生には重たいいす上げのボランティアもあります。後日、紹介します。



カフェテリア美化係も活動してます・・・「きれいになると、気持ちがいいです！」

25日の5年2組のカフェテリア美化係は、本来は4人ですが、1名が早退したので3人で係活動をしていました。学級のエリアだけでなく、他学年のテーブルを拭いたり、床を掃いたりしていました。

日本の学校の伝統、文化であり、道徳性や公共心を養う清掃する係活動の場面だと思い、写真に収めました。

「きれいになるから、気持ちいいです」と言う3人の言葉が、とっても心地よく新鮮に聞こえました。活動ご苦労様でした。 ※写真掲載の了解を得ています。

